

3 教育目標

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

- ア 「未見の我」の発見に努め、未来をつかむ能力と態度を養う。
- イ 人権尊重の精神を育成し、共同生活体としての連帯感や所属感を養う。
- ウ 権利と義務、自由と責任との調和を図りつつ、自ら学び考え行動する能力を養う。

以上のことを基に、個性と創造力を伸ばす教育を重視し、心身ともに健全で、社会に貢献できるスペシャリストを育成する。

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ア 学習面及び生活面での個に応じた指導を推進することで、生徒の望ましい個性の発見と伸長に努める。
- イ 生徒の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、人間としての在り方を重視した教育を推進する。
- ウ 生徒が自己の在り方や生き方を考え、将来の進路に対する目標をもち、それを実現するために意欲的な学校生活を送れるよう、キャリア教育を充実させる。
- エ 内部評価及び外部評価の結果に照らして、改革や改善を常に意識することで、創意工夫のある教育環境を整える。
- オ 学校週5日制の趣旨を踏まえつつ、家庭及び地域社会と協働することで、地域に根ざした教育を実現する。

2 指導の重点

(1) 各教科・科目の指導

- ア 年間授業計画及び週ごとの指導計画により適切な指導と評価の計画を立て、数学と英語の習熟度別授業、体育と家庭の少人数制授業、及び福祉科の市民講師とのティームティーチングの授業等を有効に活用することで、生徒の学力向上を目指す。
- イ 生徒による授業評価の結果を踏まえた校内研修、及び教員間の授業の参観と研究協議の成果を、生徒・保護者へ確実にフィードバックするとともに、「わかる授業」「高まる授業」を実現するための授業改善の工夫をすることで、基礎・基本の定着を図る。
- ウ 福祉科・体育科それぞれの特色を生かした授業や実習を基に、専門性を備えた人材の養成に向けた指導を継続する。
- エ 美化及びリサイクル等に関する体験活動を通して、持続可能な社会の実現の重要性を生徒に理解させる。
- オ 「情報」の授業を中心に、ICT機器を活用した学習指導の充実を図る。
- カ 生徒の発達段階を考慮しつつ、言語活動と読書活動の充実をめざす指導を、「国語」の授業を中心とした全教科で実施する。

(2) 特別活動の指導

- ア 年間のロングホームルーム計画を基に、生徒の自主的な活動を支援する。
- イ 特別支援学校などとの交流を含め、学校内外における多様な集団とのかかわり合いやふれあいを通して、生徒の豊かな人間性や社会性を育成する。
- ウ 普通科、福祉科、体育科それぞれの学科の特色を生かした野津田祭（文化部門、体育部門）を実施することで、生徒の学校に対する帰属意識や連帯感を向上させる。
- エ 体育科を中心に、運動部系部活動の活性化を図ることを通して、生徒の体力の一層の向上を目指す指導を実現する。

(3) 生活指導

- ア 生活指導部と各学年が中心となり、思いやりの心や社会生活のルールを身に付けるという指導の重点を生徒・保護者に十分に理解させ、教職員の共通理解に基づく生活指導を通して、生徒が人間としての在り方や規範意識を身に付けるための道德教育を推進する。
- イ スクールカウンセラーを活用し、教育相談委員会を充実させることで、生徒の多様な心の悩みに対応するとともに、生命に関わる重大事故の防止を図る。
- ウ 生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるように、「安全教育プログラム」を活用するとともに、地域の関係諸機関とも連携をして、宿泊防災訓練やセーフティ教室及び薬物乱用防止教室を実施する。
- エ 学校内及び学校周辺の清掃を徹底させ、環境美化の充実を図る。

(4) 進路指導

- ア 進路指導部と各学年が連携を取り、3年間を見据えた進路指導計画を作成し、キャリア教育を組織的に実施する。
- イ 学年ごとに実施する進路分野別説明会等により、望ましい勤労観や職業観を育むとともに、生徒が自らの進路を主体的に選択し実現することのできる能力を育成する。
- ウ 1・2年生による国際ロータリーとの連携によるインターンシップ事業（職業体験）を通して、生徒に望ましい勤労観、職業観を身に付けさせるとともに、主体的に進路を選択決定する能力、態度をはぐくむキャリア教育を実施する。
- ウ 進路指導に関する情報の収集や分析を踏まえた「進路の手引き」と「進路だより」を発行することを通して、生徒の進路実現に生かす指導を充実させる。

(5) 総合的な探究（学習）の時間

- ア 名称は「総合的な探究（学習）の時間」とし、履修単位は3単位とするが、福祉科はそのうちの2単位を「介護総合演習」で代替する。
- イ 統一テーマを「生きる力（生徒の未知の能力を発見し、自己実現につながる能力や資質を育成する）」とする。

(6) 人間としての在り方生き方に関する教科「人間と社会」

- ア 普通科、体育科は、総合的な探究（学習）の時間で代替する。福祉科は3年間のポイントリザーブで実施する。
- イ 教科の特徴は、体験学習や演習を取り入れ、道德教育とキャリア教育の融合を図っている。価値の理解を深める学習、選択・行動に関する能力を育成する学習、体験活動などを通して、道德性を養い、判断基準（価値観）を高めることで、社会実現に照らし、より良い生き方を主体的に選択し行動する力を育成する。

3 教育目標達成のための特色ある教育活動等

- (1) 習熟度授業や少人数授業によって、生徒一人一人の学力に応じたきめ細かい指導を行う。
- (2) 教育活動の内容を、地域及び保護者に情報発信するために、ホームページの更新を随時実施する。
- (3) 福祉科の福祉実習及び体育科の野外活動（スキー実習、キャンプ実習、海浜実習）を通して、社会に貢献できる専門性を備えた人材育成に努める。
- (4) 近隣の中学校に向けた体験入学や、公開講座等の実施を通して、中学生や保護者や地域に対して、本校の教育活動への理解を深める。